

アイススケート部連覇ならずも大健闘!

経スポ



金賞 一本準優勝!

本学アイススケート部が10月20日から21日にかけて長野県八ヶ岳の麓、野辺山帝産アイススケートリンクで開催された第35回日本学生ショートトラックスピードスケート選手権大会に出場した。

昨年度この大会で悲願の全国制覇を達成した本学アイススケート部は他大学にマークされながらも二連覇を目指した。1日目、五百メートルでは坂本侑馬（経営2年）が3位、上村翔太（経営4年）が6位、吉川政志（経営3年）が2位と順調に得点を稼ぐも、総合力に優れた山梨学院大学、世界大会経験者を擁する神奈川大学に続く総合3位で1日目を終えた。

2日目は最初の種目である千メートルで上村が大会記録を更新し2位の好成績を残すが、他の選手が続けなかつた。続く、1日目を終えた。

2日目は最初の種目である千メートルで上村が大会記録を更新し2位の好成績を残すが、他の選手が続けなかつた。一方、首位の山梨学院大学は3名が4位6位7位に入る安定した成績を残すが、この種目でも他の選手が続けなかつた。

本学アイススケート部が最も得意とする三千メートルでは吉川が1位と僅差の2位に入る頑張っぷりを見せるが、この種目でも他の選手が続けなかつた。一方、首位の山梨学院大学は3名が4位6位7位に入る安定した成績を残すが、この種目でも他の選手が続けなかつた。

を残し、この時点で4点差をつけられてしまった。本学が二連覇するには最終の五千メートルリレーで本学が1位、山梨学院大学が3位以下の場合しかなくなつてしまつたが選手達は諦めることなく果敢に勝負に出た。リレーメンバー4名の懸命の滑りで他大学を圧倒。レース途中から本学の独走状態のまま1位でゴールイン。総合優勝を信じて結果を待つが山梨学院大学がこのレースで2位に入ってしまいその差、僅か1点（山梨学院大学32点、大阪経済大学131点）で本学の大会二連覇の夢は断たれてしまった。

今大会は山梨学院大学が選手一丸となつて常に本学を目標に1点でも多く点数を取りに来たとの対照的に、優勝候補筆頭つと言わながら思わずミスの多かつた本学との差が出てしまつた。それでも昨年度の全国制覇に続き全国準優勝の成績をあげた本学アイススケート部の健闘は誰もが認めるところであろう。次年度はぜひとも王座奪回を期待したい。

発刊:大阪経済大学
スポーツ文化振興室

経
E

